

まちを再生する 99のアイデア

商店街活性化から震災復興まで
柴崎恭秀＋ソフトユニオン＝編著



序章 アイデアがまちを再生する

私たちが生活するまちは、少なからず何らかの問題を抱えています。それはその場所固有の問題で、ひとつとして同じものはないはずです。商店街がシャッター通りになっている、老朽化している、道路整備が遅れている、高齢化している、環境が悪化している、景観が壊されている、人が集まってこない、など数え上げればきりがありません。

しかし、このような厳しい状況の中でもちょっとしたことが契機になり、息を吹き返した商店街やまちがあります。それはたった1軒の商店がはじめたことがきっかけになっている場合もありますし、まち全体で取り組んだことが功を奏した場合もあります。そして、そこには必ずあるアイデアが一粒の種のように蒔かれています。何かしらの「まちを再生する魔法の種」が存在しているのです。

この本は、建築家、ランドスケープデザイナー、照明デザイナー、設備設計家、そしてまちづくりの専門家が集まってこれまで実践してきたアイデアや構想をまとめたものです。まちの中の点、線、面、光と緑、記憶と復興、インフラをテーマに、99のアイデアを整理してみました。これら99のアイデアは、東日本大震災からの復興にも役立つことでしょう。

この本を手にとり「これなら明日にでもはじめられる」と思う方が現れば、まちづくりはスタートします。誰かがやるだろうではなく、自らが立ち上がってこそ、やる気のある人たちが立ち上がってこそ、まちづくりはスタートするのです。

一緒にまちを再生する魔法の種を蒔いてみませんか。(柴)

■ 編著者一覧

柴崎恭秀（柴崎アーキテクト、会津大学短期大学部准教授）

猪野忍（猪野建築設計）

井上洋司（背景計画研究所）

岩井達弥（岩井達弥光景デザイン）

柿沼整三（Z O 設計室）

最勝寺靖彦（T E R A 歴史景観研究室）

中山繁信（T E S S 計画研究所）

いずれもソフトユニオンの参加メンバー

ソフトユニオン（LLP ソフトユニオン）とは…建築家、都市計画家、造園家、照明デザイナー、写真家、情報システム設計室などが互いに関連する事業の実現を目的として設立された組織「LLP（有限責任事業組合）」。2006年6月設立。

序章 アイデアがまちを再生する	3
-----------------	---

1章 点のアイデア——イメージアップすべきポイント

01 街路づくりの基本アイテムを使いこなす	10
02 パラペットを外して、まちの個性を発見する	12
03 看板をそのまま残して白く塗りつぶす	14
04 黒地に白字で、屋号看板をつくってみる	16
05 看板をそのまま残して緑化する	18
06 まち並みと調和した屋外広告を	20
07 アーケードを外して仮設的な装置を仕立てる	22
08 店前の室外機をどう隠すか	24
09 道に余白を設けてベンチを置いてみる	26
10 ショーケース付きの縁側空間をつくる	28
11 電柱に服を着せてリズムをつくる	30
12 景観要素のひとつ、街具をまちにつくる	32
13 オブジェでまちの空気を変える	34
14 自販機カフェをまちに組み込む	36
15 自販機インナーカフェで店の美観をアップ	38
16 足元を隠して竹矢来で景観をつくる	40
17 建物の美しさを損なわない雨樋の工夫	42
18 消火栓を地下に埋設してすっきりと	44

2章 線のアイデア——賑わいをつくり出す仕掛け

19 道にシケインを設けて、車と仲よく共存	46
20 蛇行とセットバックで道に淀み空間を	48
21 路地状空間をつくり、ネットワーク化する	50
22 新たな路地を発見して活気をつくる	52
23 生け垣の工夫で、まちの名物小道を	54

24 道と敷地に手を加えて歩道を広く見せる	56
25 シャッター通りをシアター通りに	58
26 ショーウィンドーを通りのギャラリーに	60
27 イルミネーションで独自のアーケードを	62
28 木でジグザグ形のガードレールをつくる	64
29 商店街を参道に見立てて活性化を図る	66
30 景観に配慮した雁木のような歩道を	68
31 統一したオーニング看板で景観づくり	70
32 環境装置としての水路を道に復活させる	72
33 ブロック塀を、間伐材を用いた板塀に	74
34 横丁の曖昧さは引き違い戸がつくる	76
35 門扉のような塀のような入り口を	78
36 ネットフェンスを板塀に変える	80
37 雪洞付きのイベント電線を設ける	82

3章 面のアイデア——ちょっとしたスペースの活用

38 駐車場を、まち並みを意識した東屋に	84
39 商店街にある駐車場を森にしてみる	86
40 まちの表情をつくる広場を交差点に	88
41 まちの空き地をポケットパークに	90
42 屋内に小さな路地空間をつくる	92
43 空き店舗の有効利用、シェア・ショップ	94
44 商店街を株式会社にしてビジネスチャンス	96
45 商店街独自のサウンドスケープを探す	98
46 ホワイトノイズで騒音を消す	100
47 空き地を利用して緑のアクセントをつくる	102
48 ドッグバーで犬もまちの風景に	104
49 軒先商売で新たなニーズを掘り起こす	106
50 鬼門を記憶に残すための仕掛け	108

51	付加価値をつけて親しまれる公衆トイレを	110
52	電話ボックスを歩道上のミニスポットに	112
53	活性化の仮設店舗、屋台をつくる	114

4章 光と緑のアイデア——ボリュームで考える

54	光を足さずに、まちをくっきり見せる	116
55	まち全体の光の色を揃える	118
56	まちのあかりの重心を下げる	120
57	照明効果を利用したナイトショッピング	122
58	スポットライトでストーリーボードを照らす	124
59	小さなスポットライトでライトアップ	126
60	廃油キャンドルでハイブリッド辻行灯を	128
61	まち全体に光の色を演出する	130
62	キャンドルの光を、絆を強めるあかりに	132
63	収穫祭ができる広場のような駐車場	134
64	整形木で新しい外部空間をつくる	136
65	雨水利用で打ち水のできる道路	138
66	セオリーだけでない防犯的照明を	140

5章 記憶と復興のアイデア——みんなの力でゼロからスタート

67	まちの構造を読み解いて復興に活かす	142
68	まちの名前から地形を読み解く	144
69	忘れていた場所やじゃま者を甦らす	146
70	民家の通り庭を利用して抜け道をつくる	148
71	土蔵を活用した地産地消のまちづくり	150
72	まちの見晴らしポイントをつくる	152
73	仮設住宅の間取りを工夫して復興住宅に	154
74	仮設住宅で快適に住もうための工夫	156
75	仮設住宅の技術を復興住宅に転用する	158

76	地元業者による木造仮設住宅を屋台村にする	160
77	復興住宅を商店街にレイアウトしてみる	162
78	被害建物を曳家で移動して直して使う	164
79	軟弱地盤で免震装置として機能した鋼管杭	166
80	地震を吸収するための技術を先人に学ぶ	168

6章 インフラのアイデア——中央依存から地方自立へ

81	雨水浸透処理で都市洪水を緩和する	170
82	雨水利用が路地のコミュニティをつくる	172
83	井戸の復権で、新しいコミュニティを	174
84	上水の分散供給でリスクを分散する	176
85	直結給水でエネルギーロスを解決する	178
86	下水道の浄化槽利用を促進する	180
87	下水の分流式で環境対応を図る	182
88	身近なゴミ処理で、まち環境の改善を	184
89	エネルギーの備蓄を、まち単位で	186
90	地産地消でエネルギーの分散化を	188
91	スマートグリッドでエネルギーの有効利用を	190
92	アーケードに太陽光発電を設置する	192
93	電線地中化で、すっきりさわやか	194
94	電柱をハイブリッド化してみる	196
95	樹木で延焼防止帯をつくる	198
96	まち全体で行うミクロの水害対策	200
97	防災に強い水堀のあるまち並みをつくる	202
98	液状化対策でまちの地盤を強くする	204
99	切土と盛土、いずれにしても要注意！	206

コラム	仮設住宅の居住性を考える	208
終章	プラス1のアイデア	209

23 生け垣の工夫で、 まちの名物小道を

そもそも生け垣は、プライバシー保護や防犯のために植栽されます。でも、生け垣の効用はこれだけではありません。温暖化が叫ばれる昨今、植物による冷却効果はしかり、道路からの防塵、地震時の塀倒壊の危険回避、さらに微気候の調整など、多岐にわたります。しかも高垣にすることで、防火樹の役目も果たします。維持管理が大変だというだけで、コンクリートブロックだけの塀で街区をつくるのは、いざというとき、意外な落とし穴が生まれます。倒壊もさることながら、避難行動を妨げ、救援活動も損なわせます。

どうせつくるなら生け垣を少し工夫して、まちに向かって窓のある生け垣をつくります。ここから、中の庭も眺めます。見てもらいたい自分の庭をまちに提供する絵画のようなつもりで、庭づくりをしたら、きっと庭づくりの励みにもなります。扉を付ければ、時間を限定したさまざまな演出も考えられます。この「見る、見られる」関係を、まちぐるみで進めると、知らぬ間にこの街区は「生け垣窓のあるまち」として有名になるでしょう。(井)

豆知識

生け垣に向く植物には、イヌマキ（高い生け垣に適する、風に強く、潮風にも強い）やイヌツゲ（きめの細かな生け垣になるが、日当たりがよく、穏やかな環境を好む）等があります。



生け垣窓を開くと…



見られることで
花の手入れにも
力が入る

生け垣窓があると、まちの活性化につながる

41 まちの空き地を ポケットパークに

まち行く人々や買い物客にとって、一休みできる小さな広場が道の傍らにあると嬉しいものです。思い思いに動かせる椅子や小さなテーブルでも置かれていればなおさらです。ひとりで本を読む場所となったり、知らない人どうし気軽に声を掛け合う空間となります。

まちの一角にポコッとできた空き地は、よく見かけるように仮設の板やシートで覆ってしまうよりも、たとえ短い期間でもまちの人々に開放され、小さな広場、ポケットパークとして活用されれば、あたりが生き生きとしてくるに違いありません。

これまで立っていた建物で見えなかった隣の外壁や窓にしゃれた工夫がなされ、空き地となった敷地の地面には木材のブロック、透水性のある素材などが敷かれ、花の鉢植えなども用意されれば、小さな公園、ポケットパークに変身するのです。祭りや商店街の催しなどに使われることもあるでしょう。行政がこうした土地を入手できれば、空き地周囲の壁面もしっかりと修復がなされ、より豊かにいつまでも親しまれる場所となるかもしれません。(猪)

豆知識

W. H. ホワイトは実践的都市研究に関する著書『都市という劇場』の中で、都市公園を訪れる人々は座る椅子を決めると、必ずほんのわずかでも動かし位置を定め、ひと時でも自分の場所とするのだそうです。



椅子を微妙に動かして居場所をつくる



61 まち全体に光の色を 演出する

2000年、イギリス・グラスゴーのブキャナ通りで、オレンジ色の照明からブルーの照明にしたところ犯罪が減ったという話は有名ですが、そもそものはじまりは大理石の路面をブルーの光で照明し、その反射光が通りを幻想的な光景にすることをねらったデザイン的な発想だったそうです。

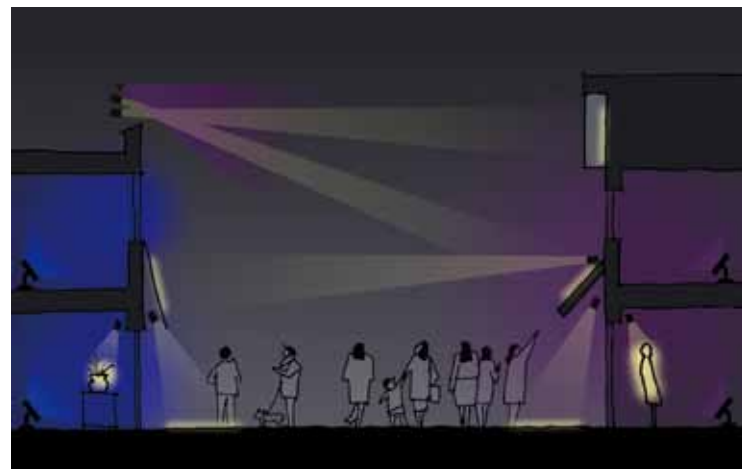
最近、日本でもさまざまな生活シーンに合わせた色彩の出せるシーリングライトがヒットしています。人が色から受ける心理的な影響を利用した商品で、色彩演出が容易なLEDが一般照明へ普及したことで商品化が可能になりました。色彩の光を日常的に屋外照明でも使うことは、世の中のニーズとなっているのかもしれませんが。カラー演出が可能な照明器具とそれをコントロールする機材は、昨今さほど特殊なものではなく、パソコンの知識があれば学生でも操作可能です。そうした機材をまずはイベント用に小規模導入し、徐々に使用頻度を上げながら買い増し、常設の演出機材として設置するといった段階的な導入方法が無理がないように思います。(岩)

豆知識

屋外LEDカラー演出の先駆けは、カラーキネティクス社のカラープラストです。コントロール装置は、パソコンで複雑なシーン設定が可能なタイプとパソコンなしで簡単に使えるタイプがあります。



色のある光とふつうの光をバランスよく使って、カラーライティング



店内の背景に色のある光を使うと、店舗のイメージづくりに役立つ

73 仮設住宅の間取りを工夫して復興住宅に

応急仮設住宅の間取りは、2DKを田の字型にレイアウトしたタイプがもっとも一般的です。これが長屋形式で横に数戸連なることになりませんが、プレハブで作られた従来の仮設住宅は、たとえば結露の問題、隣戸どうしの音の問題、断熱の問題やバリアフリー、狭さの問題など、現在までに多くの問題点が指摘されてきました。

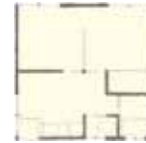
東日本大震災では、プレハブが供給規模数で5万戸以上、プレハブ以外の地元施工者による木造の仮設住宅も数多くつくられました。分類すると、プレハブ従来型の形式を木造に置き換えた木造連続型（図①）、木造戸建て型（図②）（岩手県で建設された住田式住宅など）、2戸を1棟とした木造2戸1棟型（図③）、従来の連続型の隣戸間を離して、独立しながらも屋根の連続した木造非連続型（図④）などが登場しました。戸建て型はそのまま復興住宅に移行できる利点がありますが、広さの点で課題が残ります。2戸1棟型は横につなげることで復興住宅としての広さを確保できます。また積層させて2階建てにする案も福島県では登場しています。（柴）

豆知識

上記はすべて東日本大震災の被災地でつくられた事例です。木造非連続型のは切り離して分解、移設を当初から想定しており、復興住宅以外にはクラインガルテン（市民農園）の宿泊施設にする案などが考えられています。



①プレハブ従来型・木造連続型



②木造戸建て型



③木造2戸1棟型



④木造非連続型



つなげて使う（③の木造2戸1棟型）



⑤仮設住宅を復興住宅に

